

## OBOG インタビューVol.1 藤野英人様(第2回日中学生会議参加者)



皆さんこんにちは。2010年日中学生会議参加者の伊藤匡伸です。4月26日お昼に藤野英人様とお会いできました。藤野様は88年に行われた第2回日中学生会議参加者で、大学を卒業後は複数の証券会社勤務を経てレオスキャピタルネットワークスでひふみ投信の運用を手掛けていらっしゃいます。藤野様は非常に多彩な活動をされている方で、ここでは紹介しきれないので以下のwebサイトをくわしくはご参照ください（ブログ：[http://blog.livedoor.jp/rheos\\_report/](http://blog.livedoor.jp/rheos_report/) ツイッター：<https://twitter.com/#!/fu4>）

今日は藤野様の日中学生会議でのご経験を紹介したいと思います。

### 1.参加しようと思ったきっかけ

1988年の冬に大学で日中学生会議の広告を見つけた事が日中学生会議との出会いでした。その時中国という未知の国へ興味を抱き参加を決められました。

### 2.営業・カウンターパート探し

当時の日中学生会議は設立3年目で、協賛先や中国のカウンターパート探しから始めたそうです。当時は小松原様や飯田様を戦闘に藤野様も営業といった活動に奔走されました。メンバー全員で奮闘し、三菱財団からの協賛や北京・清華大学といったカウンターパートを獲得できました。営業活動もカウンターパートも共にゼロから築き上げていったという達成感や充実感を随所を感じる事が出来ました。

### 3. 北京での活動、出会い

夏休みに行った北京での活動は現在の日中学生会議との共通点と相違点を感じることが出来ました。当時は10程の分科会に分かれてディスカッションを行ったとのことでしたが、こちらは現在も受け継がれております。

当時の北京の学生は89年の天安門事件の直前と言う事もあり、政治に対して非常にリベラルな（ともすると過激な）考えを持っている学生が多かったそうです。また文化大革命がまだ社会的にも鮮烈な記憶として残っており、藤野様も清華大学で「下放」された数学科教授のお話を聞いたそうです。

### 4. 仲間との輪 現在まで続くつながり

当時の日中学生会議には小松原様や飯田様をはじめ百生様や、山中様、藤田様といった個性的でエネルギーあふれるメンバーが集まり藤野様も常に刺激を受けていたそうです。特に百生様にはその後のキャリア形成も含め感化されたとおっしゃっていました。

当時のメンバーとは現在も親しくされており、近年では軽井沢に集まって当時の思い出を語りあったそうです。

88年の第2回日中学生会議の先輩方はゼロから築き上げた学生時代さながらに現在も自らのキャリアを切り拓いている方が多いのがとても印象的でした。

まだまだお会いしたい方が大勢いらっしゃるかと再確認したと同時に、従来 OBOG の方々との繋がりが弱かったのが非常に悔やまれます。私自身は学生最終年度ということもあり時間は非常にある身分なので（苦笑）、現役の学生と OBOG の方との繋がりを強めて行きたいと思いました。